

# 日本兵家族の“記憶”を 証言・手記し“記録”した 歴史的発信

## PTSDの 日本兵の家族の 思いと願い

PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会 / 編



「あったことを  
なかったことに  
したくない」

“記録”されなかった戦争の  
トラウマ。  
戦後も終わらない  
戦争の“記憶”を生きた  
元兵士の存在。  
家族の証言で史上初めて  
日本社会に投影する。

あけび書房 定価 1320円 (本体 1200円+税 10%)

PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会

2018年1月17日発足。代表は黒井秋夫。  
2020年にPTSDの日本兵と家族の交流館を設立。

〒208-0001 東京都武蔵村山市中藤 3-15-4  
☎ 080-1121-3888 (黒井秋夫)  
✉ qqkc6av9@ceres.ocn.ne.jp  
🌐 <https://www.ptsd-nihonhei.com>



## もくじ

### 第1章 日本兵の家族の証言

証言：黒井秋生 / 吉沢智子 / 森倉三男

コメント：中村江里 (広島大学大学院人間社会科学研究科教授)  
北村毅 (大阪大学大学院人文学研究科教授)

当事者として：中村平 (広島大学大学院人間社会科学研究科教授)

### 第2章 森倉可盛の復員後を振り返る

### 第3章 私が背負った昭和の業 野崎忠郎

### 第4章 昭和への挽歌 野崎忠郎

[編者] 黒井 秋夫 より

2015年12月、「俺はベトナム戦争の体験でPTSDを発症して暴力を振るい家族生活を壊した」と悲痛な思いを語るDVDで見た元米兵アレン・レンソンの泣きそうな顔と、抜け殻のように無気力で無様に生きてきた父親・黒井慶次郎の悲しい顔が一瞬に重なった。

過酷なアジア太平洋戦争の戦場体験が父親の精神を壊し、無残な変わり果てた父親になったのか！ 父が亡くなって25年後に知る真実だった。推定300万人も存在したPTSDの復員兵。共に暮らした家族は振るわれる暴力、アルコール依存症、無気力に家族生活を破壊された。

教科書にも書かれず、テレビ新聞でも報じられなかった戦争の真実を日本社会に訴え、声を上げ2018年1月、黒井秋夫はたった一人で「PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会」を立ち上げた。やがて日本の戦後史はこのことで大きく書き換えられるだろう。

定価 1320円 (本体 1200円+税 10%)

ISBN978-4-87154-231-9 C3020 1200E

あけび書房

TEL: 03-5888-4142 FAX: 03-5888-4448

〒167-0054 東京都杉並区松庵3-39-13-103  
<https://akebishobo.com/> Mail: info@akebishobo.com



ご記入の上、最寄りの書店あるいはあけび書房へご注文下さい。

注文書	書店印・取扱先		注文数	
	PTSDの日本兵と家族の思いと願い			冊
	団体名		氏名	
	送り先	〒( )-( )	電話番号	
	その他備考			

取次帖合：日販・トーハン・楽天ブックスネットワーク・中央社・大学図書・日教販・全官報・新日本図書・鎌谷書店・JRC

発行：あけび書房 TEL.03-5888-4142 FAX.03-5888-4448